

認知症を有する透析患者における鉄関連因子の意義

長崎腎病院

○津久田健太 下田美智子 青柳真生 山中真樹子 丸山祐子 澤瀬健次
橋口純一郎 原田孝司 船越哲

【背景】

認知症と鉄代謝との関連は未だ明確でなく、これまでの報告ではヘモクロマトーシスと脳の異常鉄沈着の関連は低いという報告の一方、Lewy 小体認知症と鉄代謝の関係はよく知られている、等がある。

【目的】

当院維持透析患者における認知症と鉄関連因子の関連を検討する。

【方法】

当院の 65 歳以上の高齢者で認知機能検査 (mini-mental state examination ; MMSE) を施行し得た透析患者 78 名において、MMSE と各鉄関連因子の関連を検討した。

【結果】

MMSE と TSAT およびフェリチンに弱い負の相関があった。一方、アルブミンとは関連がみられず、MMSE と貧血は糖尿病症例において正の、非糖尿病症例において負の相関の傾向がみられた。MMSE と年齢は負の相関があった。

【考察】

透析患者における認知症と鉄の関係は、患者の全身状態や治療の因子が影響を与えるために複雑であるものの、鉄不足または過剰と高次脳機能の関連も推測された。